

目 次

はしがき

1 章 国民主権と立憲主義 ——国家の骨格——	1
1 国民主権と民主主義 (2) 2 民主主義と立憲主義——「最高法規」の意味 (5) 3 立憲主義の確保と権力の分散 (7) 4 象徴となった天皇 (8)	
2 章 参政権と国務請求権 ——国家の車輪システム——	16
1 民主主義のサイクルとルート (17) 2 参政権 (1) 選挙権 (17) 3 参政権 (2) 司法へのチェック、憲法改正国民投票 (24) 4 国務請求権 (26)	
3 章 精神的自由権 (1) ——表現の自由——	32
1 「表現の自由」の価値と弱さ (33) 2 表現の自由と民主主義 (39) 3 表現の自由とさまざまな権利の衝突 (41) 4 表現の自由と共存社会 (48)	
4 章 精神的自由権 (2) ——思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由——	55
1 精神的自由権の歴史と地図 (56) 2 思想・良心の自由 (57) 3 信教の自由 (62) 4 学問の自由 (65)	
5 章 人身の自由と法の適正手続 ——人権の足元——	73
1 人身の自由 (74) 2 法の適正手続 (76)	
6 章 経済的自由 ——大きな流れと個人——	87
1 「自由」獲得から福祉国家型制約へ (88) 2 財産権 (91) 3 職業選択の自由、居住・移転の自由 (94)	
7 章 知的財産権と憲法 ——教育現場のリテラシー——	100
1 知的財産とは (101) 2 著作権法の基礎知識 (102) 3 著作権と憲法の関係 (106)	
8 章 社会権 ——人間らしい生存のために——	114
1 福祉国家とは、社会権とは (115) 2 生存権 (116) 3 働く	

人の権利 (120)	
9章 教育を受ける権利と児童の権利——教育者の使命とは——	125
1 誰の「権利」、誰の「義務」? (126)	
2 教育内容の「平等」と「自由」 (129)	
3 教育の環境 (135)	
4 児童の権利 (137)	
10章 幸福追求権と新しい人権——「公共の福祉」と人権——	140
1 人権保障の基本原則 (141)	
2 13条を根拠とするさまざまな権利 (143)	
11章 人権の享有主体——「個人の尊重」と「国民」——	149
1 人権の享有主体 (150)	
2 国民 (150)	
3 外国人 (155)	
4 法人 (158)	
5 天皇・皇族 (160)	
12章 法の下での平等、家族における平等——	164
——多様な個性が花開く共存社会へ	
1 世界史の視野で考える「法の下での平等」 (165)	
2 「法の下での平等」が問題となるさまざまな場面 (168)	
3 家族関係とジェンダーの平等 (171)	
13章 統治 (1) ——国民主権と国家の仕組み——	178
1 立法と国会——意思決定の作用と機関 (179)	
2 行政と内閣——国政の実行 (185)	
3 財政——国政にかかるお金のやりくり (189)	
4 地方自治——ローカルな自己統治と「住民」 (191)	
14章 統治 (2) ——司法と憲法保障——	198
1 司法権と裁判所 (199)	
2 憲法保障の重要課題 (206)	
15章 安全保障と平和主義——廃墟から芽吹いたルール——	212
1 「平和のうちに生存する権利」と「戦争・武力の放棄」 (213)	
2 国際社会のなかで揺れる日本の平和の守り方 (216)	
3 環境・災害と「平和のうちに生きる権利」 (223)	

キーワード索引

■コラム目次

- 1-1 日本における「主権の転換」とポツダム宣言 (11)
- 1-2 憲法の始まりと憲法の改正 (12)
- 2-1 選挙と政治活動と18歳 (23)
- 3-1 芸術の自由——ドイツを参考に (37)
- 3-2 プライバシー権と忘れられる権利 (46)
- 3-3 「表現の不自由展」から「表現の自由」を考える (51)
- 4-1 孔子廟判決から政教分離を考える (69)
- 5-1 奴隷制の克服と人身売買や虐待の禁止 (75)
- 5-2 正義に名を借りた暴力を防ぐために (85)
- 6-1 契約の自由と児童の保護、消費者保護 (98)
- 7-1 著作権の保護期間を考える (110)
- 8-1 学生生活と働く人の権利 (121)
- 9-1 教育法規の骨組み (127)
- 9-2 無戸籍の子ども (134)
- 10-1 パブリシティ権と肖像権 (145)
- 10-2 スポーツ権の確立と憲法 (146)
- 11-1 無国籍 (154)
- 11-2 公務員と人権 (161)
- 12-1 多様性の尊重とマイノリティの権利——学校現場での配慮 (175)
- 13-1 「会議の公開」と主催者の「知る権利」 (184)
- 13-2 「地方自治」と教育制度 (195)
- 14-1 国政と主権者の眼——裁判の公開と裁判員制度 (203)
- 14-2 学生と教員の裁判見学記 (205)
- 14-3 憲法保障と憲法改正の限界 (209)
- 15-1 国際社会のなかの日本国憲法 (221)